

牧之原市立図書館基本計画 実現状況

1 くらしを支える専門サービス 【資料の充実と専門職員の配置】

No.	基本計画	R3.4月時点で実現予定	今後の取組
1	資料収集方針の見直し	「資料収集方針」「資料選定基準」「資料除籍基準」「寄贈資料受入基準」を策定し、図書館が主体的に資料をコレクションできるようになった。	方針や基準について、図書館職員が共通理解し、選書や蔵書コレクションについて自分なりの考えを持てるようにする。
2	くらしに役立つ蔵書の増加	上記の方針・基準に従って、R2年度は約1万冊の資料を増やす。その結果、蔵書は市合計で約85,000冊になる見込み。また、雑誌や新聞のタイトルを増やして図書資料の補完につなげる。	基本計画では市合計で11万冊が目標。現在の所蔵資料は町時代から引き継いだ古いものも多く、資料入れ替えのための継続した資料費の確保に努める。
3	学校や他の図書館との連携	図書館オンラインシステムの導入により、静岡県内の横断検索に参加できるようになった。	学校への資料提供や図書館見学の受け入れができることをさらに周知し、利用拡大を図る。
4	児童向けサービスのさらなる充実	児童書の増加や読み聞かせスペースの設置により、館内での読み聞かせ活動が可能となる。	学校教育、子育て等の部署と連携して「子ども読書活動推進計画」の見直しを進めていく。
5	発見・驚きのある講座やイベントの開催	図書館主催イベントだけでなく、市や民間、さまざまな講座を企画していく予定。	おはなし会以外のイベントのノウハウが図書館に少ないため、他市町も含め情報収集を行う。
6	市民を支えるレファレンスサービスの充実	情報が古くなってしまった基本の参考資料について買い直しを行い、図書館での調査研究の充実を図る。	窓口での対応方法に個人差がでないように職員間の情報共有やスキルアップに努めていく。
7	移動図書館の運行と改善	R2年度までの53ステーションではなく、来館困難者への支援という目的に合わせ、より効率的な運行を実施する。	具体的な運行ルートや方法について現在検討中。
8	図書ボランティアへの支援	蔵書を増やし、おはなし会の幅を広げる。現相良図書館をボランティアの打合わせ等に使える部屋として開放する。	ソフト面での支援として、読み聞かせボランティア養成講座等の開催を検討する。
9	質の高い職員研修の実施	接遇研修やマニュアルの共有等を、正規職員から任用職員へ直接実施する。図書館の専門サービスについては県立図書館の研修等へ積極的に参加し、スキルアップをする。	今まで参加できなかった県外で実施される、図書館総合展や関東甲信越静岡図書館地区別研修等の参加について検討する。
10	専門的サービスを保障する人員体制の確保	R2.4より専任館長を設置した。今後、来館者増に対応するための職員の人数や質の確保に努める。	図書交流館の整備や、図書館オンラインシステム導入に伴う利用者数の増加の正確な予測が難しい。

2 であいを創る交流・憩いの場 【環境の整備とスペースの確保】

No.	基本計画	R3.4月時点で実現予定	今後の取組
1	ユニバーサルデザインの推進	図書交流館には館内に段差がないよう配慮し、通路幅も車イスが通れるよう広さも確保した。窓口には拡大鏡や筆談ボード等を設置し、利用困難者への配慮を行う。	榛原図書館は通路幅がせまく、作りが古いため使いづらさがある。点字や音読の福祉資料は、市外の図書館から借りることを検討中。

2	居心地のよい閲覧スペース	図書交流館では書棚のボリュームを抑えた分、閲覧席を多くすることで利用者が空間を広く使える工夫をしている。	榛原図書館は座席数が16と少ないため、勉強や読み聞かせをする場合は「学習室」「ここりね」を案内。
3	親子で楽しめる読み聞かせスペース	R1年度に榛原文化センターへ「ここりね」を設置し、親子読書会を開催した。図書交流館でも読み聞かせスペースを設置し、館内で読み聞かせができるようになった。	市内で活躍する読み聞かせボランティアに、図書館を利用する親子を対象に実施してもらうよう促していく。
4	自分と向き合う学習スペース	R1年度に榛原文化センターへ「学習室」を設置し、学生から大人まで幅広い人が利用。図書交流館にはまわりの音を軽減し、集中できる部屋を作り、中に25席ほどを設置した。	仕切られた空間を学習室としているため、利用者間でのトラブルや感染症の防止に配慮する。
5	であいを創る交流スペース	R1年度に榛原文化センターへ、中庭休憩スペースと「ここりね」を設置し、文化活動に訪れる人等が利用している。図書交流館では入ってすぐにオープンな閲覧席を設け、談話やドリンクを楽しむ場とした。	談話や飲食については場所を区切るなど、一定の節度を守って楽しんでいただくことで図書館機能の低下を起こさないようにする。
6	ボランティア活動スペース	相良図書館をボランティアの打合せや練習に使えるスペースとして開放する。	榛原図書館でのボランティア活動ができる場所について今後の拡充計画の中で検討する。
7	資料を保存する書庫スペース	図書交流館内に約4,000冊収蔵可能な書庫を設置。相良図書館も書庫として利用し、20,000冊保管できるようにする。	榛原図書館に約10,000冊の書庫があるが空き容量がなく、今後の拡充計画の中で検討する。
8	作業しやすい事務スペース	図書交流館内に、小規模ながら独立した事務室及び作業室を設置した。	榛原図書館には事務室がないため、今後の拡充計画の中で検討する。

3 あなたと図書館をつなぐネットワーク 【図書館システムの構築】

No.	基本計画	R3.4月時点で実現予定	今後の取組
1	図書館オンラインシステムの導入	図書交流館・榛原図書館・移動図書館の情報を一元的に管理できるシステムを導入した。	本市初めてのオンラインシステムの導入となるので、市民に伝えられるよう、職員は操作習熟に努める。
2	図書館におけるICTの活用	館内OPACだけでなく、図書館HPからも蔵書検索が可能。また、図書交流館にインターネット端末を設置し、利用者の調査研究の補助ができるようにした。	市史料館の収蔵品等も含め郷土資料をデジタルアーカイブ化し、閲覧可能にできる方法を探っていく。
3	多様な広報活動による情報発信	図書館HPや図書館だより以外に、市の観光や産業等、さまざまな情報を集め、利用者に提供していく。	図書館以外の行政や民間からの情報を効率的に集めていく手法を検討する。
4	返却を容易にするブックポストの設置	ミルキーウェイクエアと榛原文化センターにブックポストを設置し、開館時間外でも都合に合わせて返却可能となった。	市民の要望等を探りながら、返却場所を増やしていくか検討する。
5	資料を届けるメールカーの運行	図書交流館と榛原図書館間を行き来し、返却資料や予約資料の配送を行う予定。これにより利用者は最寄りの図書館で借りられる。来年度は図書館専用車両を設置予定。	返却や予約の資料を速やかに移送するため、1日1往復できるよう職員のシフト調整を検討する。